
悪夢壊し

真柴紗奈

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

悪夢壊し

【Nコード】

N5215C

【作者名】

真柴紗奈

【あらすじ】

悪夢を喰らう死神、アズサ。自分の生きていた頃の記憶を取り戻すために、戦う。

プログラマー

「いや、……だ！来ないで！」

いきなり目の前に現われた黒い、明らかに人間ではないもの。自分はどこにいる。

ここは自分の知ってる場所じゃなかった、それ以前に現在にあるまじき世界の姿だった。

必死に必死に死に物狂いで這い蹲って逃げる。

あれが何者なのか、此処はどこなのか、わからない事は沢山だ。ただ、わかる事は『逃げる』という事。

『殺す殺す殺す殺す殺す殺す殺す殺すころす殺す殺す殺す殺す
入殺す殺す殺す殺す殺す！！』

異様なまでに不吉な言葉を発するその物体。

よりいっそう恐怖が増した。

さっき、切られた頬が痛い。

夢なら痛くはない、という迷信はいつい信じてしまうものだ。痛いから、夢ではない。勝手にそう信じてしまった。

もう、心が諦めに捕まっていた。

もう駄目だ。

私はここで死ぬんだ、消えちゃうんだ。

この意味のわからない物体に叩き切られて死んでしまうんだ。

「諦めるのはまだ、早い。」

こんな時に凜と研ぎ澄まされた青年の声。
どこか馴染みの深い、そして懐かしい。

ある少年の姿を自分は思い出していた。

暗闇から見える少年、

鎌を所持している、とっさに思い出したのは、死神。
まさか、

『醜い姿から変化を表せ、悪夢よ！死神、アズサの名の下に、浄化せよ！』

パン、と黒い、忌々しき物体は破裂。

物体の破片などはどこへいったのか、見当たらない。

そして破裂したと同時に暗闇だった空間に光が差した。

あたりを見回すとよく見た事のある部屋、自分の部屋だった。

どれもこれも昨日の夜見た風景と同じもの。

目に入った目覚まし時計も7時を指している。

一体、何だったのだ。

先ほどまで見ていたのは、夢だったのか。

頬に切れた傷跡、ピツタリと元通りになっではいるが痕が残っている。

真実だったのか、幻なのか。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5215c/>

悪夢壊し

2010年10月10日00時23分発行